

## 序 文

本小冊子は、2001～2004年度科学研究費補助金基盤研究(A)「ロシアの世界経済との統合に関する総合的研究」(課題番号 13303001)の研究成果の一部である。本冊子には、2003年2月1日にスラブ研究センターで開催されたポスト・シンポジウム・セミナーにおける3本の報告が収録されている。

シャシュノフ氏(モスクワの国立経済大学教授、2002年度は横浜国立大学経済学部客員研究員)は、ロシアの家計、とくにその貯蓄行動についてのロシア屈指の専門家であり、収録された論文のなかでも、ロシアにおける家計貯蓄行動の特徴について最新の分析を行っている。この論文のもう1つの大きな意義は、ロシアの家計貯蓄に関する統計調査の問題点について詳しく検討されていることで、それらが国際的な統計方法との比較という視点から論じられている。

齊藤久美子氏(和歌山大学経済学部助教授)によるロシアの会計に関する論文も、国際会計基準との比較という観点からロシアの現在の会計制度の問題点を論じている。近年、日本政府は会計制度の分野においてロシア・旧ソ連諸国に対する技術支援を行ってきたが、齊藤氏はそのなかで主導的な役割を果たしており、そのときの講義資料を交えた報告となっている。

岡田晃枝氏(東京大学大学院総合文化研究科博士課程院生)はトルクメニスタンに関する研究を精力的に進めており、収録された報告では、同国の自律性について貿易データを使って分析するという試みに挑戦している。方法論についても、分析結果の解釈についても、検討を要する点がまだ残されているが、新しい分析方法の提起という点で、大変興味深い報告となっている。

以上の3報告は、ロシアの世界経済との統合という本プロジェクトの研究テーマに、間接的ではあるが、深く関係している。ロシアの統計・会計制度の国際化の問題は、統計分析を主要な分析手段の1つとする本プロジェクトにとって極めて重要なトピックである。また、トルクメニスタンの対外経済関係は、ロシアのCIS諸国との関係を重視する本プロジェクトにとって当然ながら視野に入れておくべきトピックである。本冊子で扱ったいずれのテーマも、今後の研究の進展が大いに期待されるものであり、本冊子がいくらかでもそれに寄与することを期待する次第である。

2003年4月

研究代表者  
田畑伸一郎